

# いばきた

## デザイン プロジェクト レポート

IBA-KITA  
DESIGN PROJECT  
REPORT

03

2019 / 3



お問い合わせ  
茨木市 都市整備部 北部整備推進課  
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13  
電話：072 (620) 1609  
ファックス：072 (620) 1730  
メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp



標高510m 茨木の最高峰「竜王山」山頂の展望台から眺める茨木の市街地。空気が澄みきった日には、大阪平野、大阪湾、生駒連山などを見渡すことができます。

### 課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。

## 茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

いばきたデザインプロジェクトでは、このような課題解決に向けて、地元で暮らしている方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができる「仕組み」をデザインしていきます。

#### プロジェクトチーム

大学、専門識者、クリエイターをはじめ、地元地域の方々や北部地域で活動する団体と連携を深め、協働の体制をつくる

北部地域と密接につながり

フィールドワーク、取材、編集などの活動を行う

活動を通じてプロジェクトの「仲間」をつくっていく



課題解決に向けて  
みんなで意見やアイデアを出し合える「場」をつくる

- 地域課題の「見える化」を行い、みんなで共有する
- 歴史、文化をはじめ、自然環境、人々の暮らしなど地域資源や魅力を再発掘していく
- 北部地域の未来図を一緒につくっていく

過程と成果を  
情報発信 <> 情報共有

北部地域で暮らしている方々

市内外で活動している方々

課題解決と価値創出を目指して  
地域の魅力や資源を再編集し、  
ストーリーをつむぎあげていく。

大阪大学大学院 工学研究科の学生が  
「上音羽」でフィールドワークを行いました。

「いばきたデザインプロジェクト」は、茨木市北部地域の魅力、資源を掘り起こし、地元と市内外の人たちが一緒になって、デザインによる課題解決を目指していきます。大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域とチームを組んで実施された「上音羽」のフィールドワークでは、上音羽自治会 会長鎌谷優さんを訪ね、地元の歴史や文化、人々の暮らしについてお話を伺ったり、地域の見どころや名所を案内していただきました。プロジェクトチームは、この貴重な体験を活かし、地域の再編集、ストーリーづくりを推進させ、新たな価値創出につなげていきます。



上音羽自治会 会長 鎌谷優さんに、歴史、風土、文化をはじめ、ご自身の地元への想いをお話していただきました。



見山の郷と  
摂南大学経営学部の学生が、  
一緒になって新年を盛り上げる!!  
「もちつき大会」を開催しました。

平成31年1月8日、プロジェクトチームの摂南大学経営学部の学生たちが企画・運営する「新年もちつき大会」を開催しました。地元の方々へのお声掛けや、チラシ、インターネットを使った告知によって集まっていたお客様には、せんざいを振る舞ったり福引を行ったり。新しい年を、みんなで盛り上げました。今後も「とにかく何かやってみたい!」という学生たちの想いとパワーを原動力に、見山の郷の未来図と一緒に描いていきたいと考えています。



常にチャレンジを続け、  
成果をノウハウ化しながら、  
「新しい仕組みづくり」につなげていきたい。

組合組織は、一般の企業と比べて、プロジェクトや開発事業を推進するための過程が複雑化したり、意思決定が停滞してしまうというケースが少なくありません。お客様のニーズが多様化、細分化する現代社会においては、見山の郷も例外ではなく、迅速な意思決定は克服すべき大きな課題であると言えます。一方、見山の郷には「地元の方々が丁寧に育てた新鮮な野菜」「真心が込められた美味しい料理」「創意工夫が施された加工食品」など、独自の魅力が十分に備わっています。さらに、スタッフの方々の地域への愛情、お客様との親密なコミュニケーションといった、企業には真似のできない一貫したアイデンティティが根付いています。課題解決へのアプローチとしては、まず、自分たちの「強み」を、しっかりと見つめ直し、再編集すること。そして、多くの人たちへ「共感できるメッセージ」として発信していくことが大切ですね。私のゼミでは「五感を使ったマーケティング」に取り組んでいます。座学や理論だけではなく、市場を体感で捉える試みです。そこから湧き出される方法や実践こそが生きた経営だと考えています。いばきたデザインプロジェクトでは、見山の郷、学生たち双方の「刺激」と「発見」につなげることができたのではないのでしょうか。今後も、常にチャレンジし、成果をノウハウ化させ、それを継続させるための「新しい仕組みづくり」に向けて、一緒になって取組んでいきたいと思っています。

鶴坂貴恵 (つるさか たかえ) /  
摂南大学経営学部 経営情報学科長 教授  
1961年大阪府生まれ。関西学院大学大学院 商学研究科博士課程前期課程修了。大阪府産業開発研究所 (現大阪産業経済リサーチセンター) を経て、2014年より現職。研究分野はまちづくりマーケティング。



子どもたちと学生には、とても貴重なもちつき体験となりました。  
親御さんやお年寄りの方々も優しく見守っていただきました。